

第2回今後の自動車事故被害者救済対策のあり方に関する検討会 議事概要

1. 日 時:令和3年2月2日(火)14時00分～16時00分 (web 会議形式)
2. 出席者:小沢委員、桑山委員、古謝委員、古笛委員、徳政委員、福田委員、堀田委員、松原委員、宮田委員、麦倉委員
3. 議事(概要)
 - 事務局から資料に沿って説明。その後意見交換を行った。

[委員からの主な意見]

① 療護施設の充実関係

- ・ 療護センターにおいては、患者の受け入れ時期の前倒しを検討し、合併症への対応等も行えるようにすべきではないか。

② リハビリの機会の確保等関係

- ・ リハビリの充実に取り組まれること、総論的には賛成であるが、リハビリは居住している地域の中で長期的に取り組むことが重要であると思うので、こうした視点も踏まえて検討してもらいたい。
- ・ 脊髄損傷に関しては、よほど状態がいい場合には回復期リハビリテーション病棟における入院期間である6ヶ月で自立生活に戻れるほどの状態で退院できるケースもあるが、場合によっては3年の期間を要してやっと自立生活に戻れる人もいる。医療制度と現実の間に大きなギャップがあるように感じている。
- ・ 病院や施設における高次脳機能障害に対する理解も十分ではない。国土交通省の指定している短期入院協力病院や短期入所協力施設で高次脳機能障害のリハビリをできるようになるとありがたい。
- ・ 高次脳機能障害者を対象としたリハビリの充実策においては、自立訓練終了後の受け皿も含めて検討する必要がある。また、高次脳機能障害者を施設として受け入れた場合のインセンティブを設けるなど、事業者単位での支援ではなく、対象者に着目した支援や研修等に参加する交通費等について検討してもらいたい。

③ 介護者なき後への備え関係

- ・ 介護者なき後の生活の場の確保(療養環境の整備)に関して、なかなか難しい課題であることは理解するが、具体的な将来像が描けていない。是非とも十分に議論し、厚生労働省とも協力して知恵を出してもらいたい。
- ・ 介護者なき後の生活の場の確保については、NASVA にも何らかの形で関与してもらいたい。NASVA が求められている役割は変化し、これまでも対応されてきたと思う。今後5年間の方針を議論する機会に今後のNASVA が果たしていく役割についても検討してもらいたい。
- ・ 介護者なき後への備えにつながるものなので、重度訪問介護事業者への人件費の補助は継続して行った方がよいのではないか。

- ・ 自立生活アシスタント事業が横浜市の独自事業として行われているが、こうした取り組みが全国的に広がるよう、取り組んでもらいたい。見守りや権利擁護の取組みにつながり、成年後見に至る前の意思決定支援として広がってもらえればと思う。
- ・ 介護者なき後への対処については、親身になって相談に乗ってくれる福祉、介護、医療、幅広い分野に精通した人材を育成し、確保することが重要。

④ 事故直後の支援(精神的ケア)関係

- ・ 自動車事故被害者が相談支援を受けられる環境を整えてもらいたい。NASVA では交流会等の機会もあると思うが、相談支援や勉強会等を被害者団体と当事者の活用も含めて連携してもらいたい。
- ・ 家族団体・当事者団体が行っている活動は精神的なダメージへのケアのみならず、情報提供や相談支援など幅広い。こうした取り組みが事業として成立するような支援が必要ではないか。
- ・ 精神的ケアや必要としている支援を提供できる団体等へのつなぎ役など、日弁連交通事故相談センターが今後果たすべき役割を検討していくに当たって、委員のみなさまのアドバイスをいただきたい。

⑤ その他

- ・ NASVA の訪問支援への当事者の同行を可能とすることも検討したらよいのではないかな。
- ・ 病院の MSW をキーとして、地域の中で当事者がさまざまな支援施策を利用できる仕組みづくりが必要ではないかと思う。国土交通省で作成されている「交通事故にあったときには」の冊子は素晴らしいものだと思うので、多くの方にこの冊子を知ってもらえるように広報を考えてもらいたい。
- ・ NASVAには遺族団体との交流も進めてもらいたい。
- ・ NASVA では自動車アセスメントを行っているが、こうした取り組みをしていることを被害者団体にもっと知ってもらうべきであるし、自動車事故被害者救済対策のみならず、犯罪被害者等対策をはじめ、幅広い知識を被害者団体や当事者が持てるように NASVA は情報提供に積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 市町村は自動車事故被害者に対する救済対策に対する理解に乏しいことが多く、一般的な介護・福祉施策の枠の中で自動車事故被害者への対応をしがちである。これによって自動車事故被害者の行き場がなくならないようにする必要がある。
- ・ ICT の活用について今後検討していく視点があってもいいのではないかな。
- ・ 本検討会においてとりまとめられる事項の事後検証のあり方について、考えてもらいたい。